

モデル事業名	多様な主体との連携による京都西山フォレスト事業
活動団体名	西山森林整備推進協議会
ホームページ	http://www.nishiyama-shinrin.com/
所属/ 担当者名	長岡京市環境政策推進課 木本直樹
連絡先	(075)955-9542 kankyouseisaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp
活動地域	京都府長岡京市西山地域

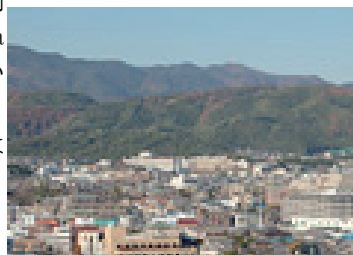
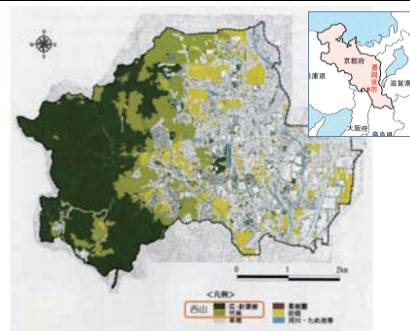
● 活動地域の概要

長岡京市は、京都市中心部から直線距離で約10km(鉄道で約10分)、大阪市中心部から直線距離で約30km(鉄道で約30分)に位置している。京都・大阪のベッドタウンとして1960～70年代に大きく人口が増加したが、近年は伸び率が低下する傾向にある。

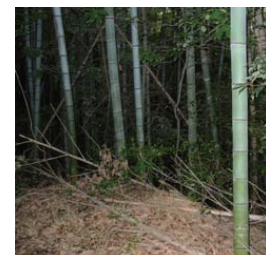
長岡京市市域のうち、西側の山地である西山地域は市の面積の40%を占め、うち64%が雑木林、16%が人工林、20%が竹林である。また、面積の99%以上が民有地であり、所有者は約600名に上っている。

西山地域に降り注いだ雨は、良質な地下水となって山裾から湧出し、市民の水道水や飲料水製造業等に利用されており、市の上水道の年間汲み上げ水量約480万tの多くを、西山の森林面積(約800ha、市内年間降水量約1,500mm)が、水源機能として果たしている。

一方で、社会情勢や生活様式の変化により、近年の西山は森林の荒廃化が進行しつつある。



【西山全景】



【荒廃する竹林】

● 活動地域の課題

前述のように、近年の西山は、生活様式の変化や輸入木材の増加等により放置された山林が増え、生態系への悪影響と本来森林が保有する多面的な機能を持った里山の復活が喫緊の課題となっている。

協議会ではこれまで、平成18年に策定した西山森林整備構想に基づき、地域協働のもと森林整備を進め、森林面積800haのうち、159haについて整備を行ってきたが、当該地域の森林の実に99%以上が民有林であるということに加え、今後の財政状況を踏まえれば、これからも計画通りに森林整備が推進される保障はない。

したがって、これまで以上に幅広い主体の参加を促すとともに、次世代に向けた人材育成を図っていくことが必要である。また、施業技術についても、雑木林の施業方法が確立されていないことやナラ枯被害を抑制し、より水源涵養機能を発揮される森林へと誘導するための新たな施業方法について、技術的な体系を確立していく必要がある。

● 活動の内容

平成18年2月に協議会が策定した西山森林整備構想に基づき、森林整備活動と基盤整備のハード事業、子どもたちの体験型環境教育事業、一般市民を対象とした森林ボランティア体験行事とボランティア養成講座、啓発事業として整備された竹林で行う竹林コンサートやイベントへの出展を行い、西山における環境保全を実践している。

【活動①】伐採木竹の利活用

森林や放置竹林の整備により伐採された木竹を資源として再利用する新たな方法をワークショップで検討した。現在は主に竹炭や土壌改良材としての竹チップ、間伐材は一部の小学校の校舎改築やベニヤ板の材料として利用されているが、間伐した広葉樹を学校など公共施設で有効活用するための方法として、平成21年度に市内の小学校の一部と緑の協会に薪ストーブが実験的に導入された。京都府下では山中の小学校での導入事例はあるが、街中での導入は珍しい。

【活動②】西山ファミリー環境探検隊

次世代を担う子ども(小学生)を対象として体験型環境教育を実施し、四季を通して西山の様々な自然を体験することにより、環境に配慮した生活や行動ができる人材の育成を目指す。地元大学生もボランティアとして事業に参画するなど、地元NPO、企業ボランティアとともに、間伐材や竹などを使った木工教室やおもちゃ作製など、地域コミュニティによる体験型環境教育の実現に向けた取り組み内容とした。

【活動③】新たな森林施業方法の実験

ワークショップで検討した新たな森林施業方法として、住民ボランティアが専門家の指導のもとで森林整備を行った後を、森林組合等プロの手により整備を完了させる方法を実施した。

● 活動の成果

協議会が行う多様な主体との連携による森林整備や普及啓発活動を通して、自然環境や環境問題に関する市民の理解や関心が高まり、地域コミュニティの創生に繋がっている。

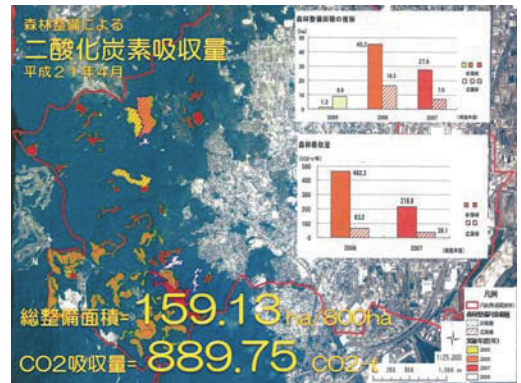
協議会により森林整備が行われた場所については景観が大きく改善され、市民にとっての憩いの場となっている。また、整備により希少植物であるオオバトソウの増加など、生物多様性が向上したとのデータが得られた場所も見られている。

森林整備による二酸化炭素吸収量についても公益社団法人京都モデルフォレスト協会に認定されており、地球温暖化防止活動としても貢献している。

・直近1年間の成果など

森林整備構想に基づき協議会が行う森林整備活動は、地域の多様な主体との連携により順調に行われ、緑の保全や水源の涵養、生物多様性の確保、レクリエーション空間の形成など、本来的に森林が持つ多様な機能の回復と、二酸化炭素吸収源として地球温暖化の防止にも貢献することが出来た。

また、懸案となっていた間伐材の利活用については、市内の一部の小学校の図書室と、財団法人長岡京市緑の協会に薪ストーブが実験的に導入された。特に小学校に薪ストーブが設置されたことは、子どもたちへの環境教育の一環として期待されている。



● 今後の課題及び展望

・課題

協議会の活動を持続可能なものにする最も重要なファクターは、活動を担う人材の育成である。長岡京市でも住民の高齢化が進行しており、企業においても、生産性や経済環境への対応から従業員数が激変している。協議会が今後も着実な森林整備を進めていくためには、現在行われている市民ボランティア育成プログラムの推進と、より多くの企業がフォレスト運動へ賛同することが求められる。

・展望

協議会設立時から現在に至るまで、協議会の活動資金は地元企業のサントリーホールディングン株式会社からの指定寄付金と京都モデルフォレスト協会を通しての寄附金、長岡京市からの補助金と一般財源が主であり、これらによって安定的な森林整備が行われてきた。しかしながら、西山区域のほぼ全域が民有地である現状と、林道等の基盤不足を踏まえれば、これまでのように円滑な森林整備が行われていく保障はない。

将来において森林整備を継続していくためには、森林所有者との連携を確保、強化していくことと、林道等の基盤整備を進めていくことが不可欠である。協議会ではそのことを重点課題として捉え、森林所有者にこれまでの森林整備状況を周知していただき、将来的には所有者自らが積極的に山に関わる仕組みの構築に向け、議論を進めている。

● その他（自由記述）

協議会の設立は、京都モデルフォレスト協会の設立の2年前であり、地域の多様な主体が連携して行うモデルフォレスト運動の先進的なモデルとして注目されている。協議会では、今年度も栃木県宇都宮市の議員視察団や、民間コンサルタント会社の訪問など、数件の視察の受け入れ、設立にあたっての経過や、森林整備や普及啓発の活動効果などを発信している。

地球温暖化をはじめとする環境問題は、近年の社会的かつ行政的な課題であり、二酸化炭素の吸収源としても森林整備活動にかかる期待は大きい。協議会ではさらなる普及啓発活動を行うことにより、内外に向けて活動の環の拡大を図ってきたい。